

第4章 水産業編

1 水産業編の概要図

基本方向

水産業を担う「人づくり」、水産業で輝く「モノづくり」、水産業を支える「地域づくり」を基本方向とし、「持続可能な水産業の確立」と「成長産業化の促進」を両輪とし、令和の時代に向けた改革の推進に「愛媛力」で挑戦します



水産業を担う「人づくり」

～えひめの水産業を支える担い手を確保・育成します～

新規就業者の確保・就業後の経営安定化のサポート、次世代を担う若手リーダーの育成、漁業のスマート化による省力化・効率化推進、外国人労働力の積極的な活用、漁労作業中の事故防止 など



水産業で輝く「モノづくり」

～えひめの水産業の発展を目指します～

魚礁・増殖場の整備や藻場・干潟の保全再生、栽培漁業・資源管理型漁業の推進、養殖業の新技术の開発、真珠産業の振興、研究開発への先端技術の積極的な導入、県産水産物の価値創造、海外販路の規模拡大 など



水産業を支える「地域づくり」

～えひめの水産業を育む地域づくりに取り組みます～

漁業経営基盤の維持・発展の支援、漁業協同組合の組織強化の推進、女性の活躍の場の拡大、津波等に備えた漁港の防災対策、インフラ整備・水産関連施設整備、流域社会と一体となった内水面漁業の振興、交流人口増加による漁村への理解促進と活性化の推進 など

[計画期間] 令和3年度～令和7年度

[主要指標] 漁業産出額：900億円

※種苗生産額は含まない

[関連計画] 愛媛県資源管理指針、愛媛県栽培漁業推進基本計画、愛媛県真珠振興計画 など

2 取り組んでいく施策

(1) えひめの水産業を支える担い手を確保・育成します

新規就業者の確保に積極的に取り組みます

県内外へ本県水産業の魅力を発信し、意欲ある人材を積極的に受け入れ、次世代の水産業を担う人材の確保・育成やそれを支える体制の構築に努めます。

具体的な推進事項

- インターネットや就業フェアを活用し、就業支援につながる情報発信に取り組みます
- 水産高校等と連携し、後継者育成を推進します
- インターン制度を充実させ、就業しやすい環境づくりに努めます
- 愛媛県漁業協同組合を核として、就業希望者と関連団体とのマッチングや担い手育成に努めます

本県の水産業に関する情報をインターネットや就業フェアで、県内外の就業希望者に対して発信し、興味や関心をもってもらうとともに、水産高校生や就業希望者へのインターン制度を充実させ、実際の水産業を体験することで実態認識を深めることにより、就業後のギャップがない環境づくりに努めます。

就業にあたっては、愛媛県漁業協同組合のスケールメリットを活かし、就業希望者と県内漁業関係者とのマッチングを行うとともに、就業受入体制の整備・充実を進めます。



都市部での漁業就業フェア



大阪や福岡などの都市部で開催される漁業就業フェアで、就業者を求める漁協等がブースを設置し、就業を希望する方との面談によって、研修・就業先をマッチングしていくきゃん。双方が合意すれば、長期研修などを経て、就業することになるきゃん。

新規就業者の経営の安定化をサポートします

新規就業者の漁業技術の底上げや経営初期に必要な資金面の支援、新規就業者間のネットワークづくりなどの取組を推進することにより、新規就業者が定着しやすい環境づくりを整えます。

具体的な推進事項

- IoT 技術を活用し、漁業技術の見える化を図り、技術の底上げに努めます
- 漁船や漁具のリース制度等の活用により、起業時のイニシャルコストの低減を支援します
- 新規就業者間のネットワークづくりを支援し、就業後の人的なフォローアップをします

漁業に必要な技術は、漁獲や養殖の技術だけでなく、漁船の操船、漁具の補修、漁獲物の鮮度保持など多岐にわたるうえ、このほとんどが経験則で培われており、新規就業の妨げになっています。そのため、IoT 技術等を活用するなどデジタル化を進め、漁業技術の見える化を推進することで、スムーズに就業できる環境づくりを目指します。

また、新規就業のためには、漁船や漁具を準備するための経済的な負担も大きいため、漁船や漁具のリース制度、漁業経費には制度資金を活用し、起業時のイニシャルコストを抑えるための支援を行います。

また、新規就業者間のネットワークづくりを支援することにより、お互いに情報交換やアシスト（支援）できる体制の構築に取り組みます。



瀬戸内海での漁船漁業の操業



宇和海での魚類養殖



国のリース制度などを活用し、漁船や漁具などの取得を容易にすることで、就業までのハードルを下げる取組を行っているきゃん。

また、平成 29 年度からは、新規就業直後の担い手に、漁業経費等へのサポートも行っているきゃん。

意欲的な漁業者の育成・支援を行います

次世代を担う若手リーダーの育成や先端技術の普及、新たな販路開拓に努めることで、本県の水産業が未来に向かって羽ばたくきっかけづくりを支援します。

具体的な推進事項

- 水産業普及指導員が現場を巡回し、技術指導を行います
- 漁村の若手リーダーの育成に積極的に取り組みます
- 先端技術や先端機器の導入等に取り組む漁業者を積極的に支援します
- 県の試験研究機関が開発した技術等の普及に努めます
- 漁業者による直接販売や 6 次産業化など新たな販路開拓への取組に対して積極的に支援します
- 魚価向上につながる漁業者と流通業者の連携システムの構築を支援します

将来の本県の水産業をけん引するリーダーとなる人材を育成するため、地域の核となって前向きに頑張る漁業者を積極的に支援します。

水産研究センターや国の試験研究機関等が開発した技術等の普及を、水産業普及指導員が積極的に進めるとともに、先端技術や新たな機器導入等に取り組む漁業者を支援します。

生産技術だけでなく、近年拡大しつつある EC 等を活用した新しい販売への取組や 6 次産業化への取組、さらには漁業者と流通業者との情報共有による連携システムの構築など、新たな販売チャネル開拓へのチャレンジに対して支援します。



アサリの垂下増殖



アサリの天然採苗



水産研究センター等が開発した新たな技術を積極的に取り入れたり、他県の優良事例を参考にしたりして、漁家所得の向上などに取り組む意欲的な担い手をサポートしているきゃん。

写真は、水産研究センターが開発した技術を使ってアサリ増殖に取り組んでいるきゃん！so cool！

就労環境の改善・労働力の確保を行います

かつては3Kと呼ばれることもあった、水産業の就労環境を改善するため、新しい技術の導入による作業負担の軽減やワークシェアリングによる労働時間の縮減を支援することで、より働きやすい環境づくりを目指します。

具体的な推進事項

- 漁業のスマート化を図り、作業の省力化・効率化に努めます
- 不足しがちな労働力を確保するため、外国人労働力の積極的な活用を支援します
- 水福連携による取組を支援します
- ワークライフバランスの取れる産業構造の構築を目指します
- 海上保安部等と連携して安全啓発活動を行い、漁労作業中の事故等の防止に努めます

漁労作業は技術の結晶であり、その進化によって現在の水産業が成り立っていますが、漁村の過疎化や就業人口の減少に歯止めをかけるため、これまでの漁労作業を見直し、先端技術の導入や創意工夫による、より働きやすい環境づくりをサポートします。

また、労働力不足を解消するための支援として、日本人労働者の人材育成のみならず、外国人労働者の活用や水福連携の取組を導入することで、子育て支援にも寄与するワークシェアリングを行うとともに、時間的制約が多い活魚や鮮魚以外の商品の導入などによってもその改善を図り、ワークライフバランスのとれる産業構造の構築を目指します。

また、海上作業は総じて危険を伴うため、海上保安部等と連携して安全啓発活動を積極的に行うことで、漁労作業中の事故等の防止に努めるなど、働きやすい環境づくりに取り組みます。



県取締船による啓発活動



平成30年2月から、ライフジャケットの着用が義務づけられたきゃん（違反点数の付与は令和4年2月以降）。海難事故防止の観点から、各種の会合などを通じて、県からもライフジャケットの着用に向けた普及啓発を行っているきゃん。

(2) えひめの水産業の発展を目指します

持続的な生産が可能な海づくりに取り組みます

効率的な漁獲が可能な魚礁漁場や資源増大に向けた増殖場の整備を行うとともに、栽培漁業、資源管理型漁業を推進することで、豊かな海づくりに取り組み、その維持発展を図ることにより、儲かる漁船漁業の仕組みづくりに努めます。

具体的な推進事項

- 魚礁・増殖場の整備や藻場・干潟の保全再生に積極的に取り組みます
- 放流対象魚種の種苗生産技術や放流手法の向上に努めます
- 漁獲報告や採捕停止措置等により資源管理制度を推進します
- 有用魚種の資源管理を行う上で必要な調査を積極的に行うことで、水産業の持続的な発展に努めます
- 国の研究機関等と連携し重要資源の新たなモニタリング手法や管理方法の開発に努めます
- 円滑な操業に向けた漁業調整を行うとともに、県漁業取締船による広域的な漁業取締を行うことで、漁業秩序の維持に努めます。

沿岸域における藻場・干潟の保全、浅海域における増殖場の造成、沖合域における魚礁の設置、整備された増殖場への種苗放流による保護育成を行うことで、一体的に水産環境の整備を推進します。有用資源の増大に向け、愛媛県栽培漁業推進基本計画に基づき、放流対象魚種の種苗生産技術の開発や放流手法の向上に取り組むとともに、有用魚種の資源管理に対する指導及びそのために必要な調査を積極的に行い、資源管理を実効性のあるものとし、また、水産資源の状態をよりの確に把握し、増大させるための、新たなモニタリング手法や管理手法の開発に努めます。さらには、漁業調整により円滑な操業環境の醸成を図るとともに、漁業取締船の機能を維持・強化し、実効性の高い漁業取締を行い、漁業秩序を維持することで、漁業者の負託に応えます。



魚礁・増殖場の整備



資源管理：カタクチイワシ漁



魚を集めて効率的に漁獲するための魚礁や、稚魚の餌になる生物の発生を促し、外敵から身を守るための隠れ場所となる、増殖場の整備を計画的に進めているきゃん。また、資源が減少していたサワラやカタクチイワシなどでは、漁業者の自主的な資源回復への取組をサポートしているきゃん。

養殖業のさらなる発展に努めます

新しい養殖の技術の開発や、既存技術の改良を推進するとともに、生産から販売まで一貫した方針に基づく真珠産業の振興に取り組みます。

具体的な推進事項

- 媛スマ（スマ）やサケ類といった新たな養殖魚種の開発や、ブリなど本県主力魚種の優良系統選抜の研究に取り組みます
- 生産コスト削減に向けた低魚粉飼料の普及や、対応品種の系統選抜に取り組みます
- 魚病や赤潮による漁業被害を軽減するための技術開発・研究を行います
- 漁場改善計画の着実な実行により持続的な養殖生産に努めます
- アコヤガイ稚貝大量へい死対策や、優良ピース貝・母貝の生産技術開発に取り組みます
- 真珠振興計画に基づき、生産から販売に至るまで一体となった真珠産業の振興に努めます
- 漁場の環境変化に対応する藻類養殖技術の開発を行います

魚類養殖業及び藻類養殖業については、各種研究開発による養殖技術の底上げに加え、新たな養殖対象種を開発し、魚種の多様化を図ることで、産業の活性化を図ります。

真珠養殖業については、愛媛県真珠振興計画に基づき、生産から販売に至るまでの一貫した方針の基、産業の活性化を図ります。また、令和元年度に発生したアコヤガイ稚貝大量へい死については、原因究明や強い貝づくりを進めるとともに、品質の高い真珠を生み出すピース貝や母貝の生産技術開発にも継続して取り組みます。

また、養殖を営む漁業権漁場については、漁場を適切かつ有効に活用している漁業者の意見を聴いた上で、その利用を確保しつつ、海面の有効利用に努めます。



媛スマ



アコヤ真珠



愛媛の魚類養殖業の生産は、マダイとブリ類が約9割を占めていることから、魚種の多様化が課題となっており、媛スマなどの新たな養殖魚種を開発を行っているきゃん。

また、令和元年度にはアコヤガイ稚貝の大量へい死が発生しており、これに対応するため環境の変化に強いアコヤガイを開発しているきゃん。すごいきゃん！

未来を見据えた試験研究開発に取り組みます

インターネット技術の進歩や社会情勢の変化に対応した試験研究に積極的に取り組むとともに、開発した技術の積極的な情報発信や他機関と連携した研究開発を推進します。

具体的な推進事項

- ICT、IoT、AI を活用した試験研究を積極的に進めます
- 水産研究に関する情報発信や教育を積極的に行います
- 高度化・複雑化する漁業者のニーズに応える研究を行うため、水産研究センターの機能向上に努めます
- 大学や国の研究機関との連携による研究開発を積極的に進めます

県の試験研究開発については、社会的なインフラとなっている ICT、IoT、AI を活用した各種試験研究を実施します。研究にあたっては、大学や国の研究機関とも連携し、より短期間で着実に成果につながる研究体制を構築するとともに、開発した技術や研究成果については、水産業普及指導員とも連携し積極的に現場にフィードバックするほか、広く情報発信も行います。

また、設置から 40 年以上が経過した水産研究センターについては、現在の高度化・複雑化する漁業者のニーズに応える研究を行うため、新たな研究手法や技術に対応した施設の計画的な整備に努めます。



県水産研究センター



同海洋環境分析



現在の水産研究センターは、昭和 55 年に宇和島市下波に建設され、これまでも、マハタ、クエ、媛スマなど新たな養殖魚種や高品質な真珠を生産できるアコヤガイの開発、漁海況や赤潮などの調査で多くの成果を上げてきたきゃん。

これからも漁業者のニーズに応えるため、施設の更新を行い、時代に対応した試験・研究に取り組んでいくきゃん。

県産水産物の価値創造に努め、民間活動をアシストします

愛育フィッシュをはじめとする県産水産物の優位性を前面に押し出した取組を県が行うことで市場価値を創造し、民間活動が効果を発揮できるよう努めます。

具体的な推進事項

- 愛育フィッシュのネームバリューの向上に努め、民間活動のアシストをします
- スーパーや料理教室での食べ方提案や魚食教育を行うことで、地産地消を含めた家庭内での消費拡大を促します
- 高級料理店をターゲットにした活動で、愛育フィッシュの価値の底上げを図ります
- DX（デジタルトランスフォーメーション）の推進により、効果的な情報配信を図ります
- 県産真珠の新たな購入層の開拓に向けたPR活動を行うことにより、民間活動をアシストします

魚類養殖生産日本一の本県で生産される養殖魚の総称「愛育フィッシュ」のネームバリューの向上のために、県が率先して愛育フィッシュのプロモーション活動を行うことで、社会的認知度と信頼度を上げ、それらを販売していく民間事業者をアシストします。また、家庭生活における愛育フィッシュの消費拡大のための取組や、高級料理店等での価値創造により、愛育フィッシュがより活躍しやすい環境づくりを行い、さらにはDXの推進によってそれらがより効果的なものとなるよう、取り組みます。

真珠については、ターゲット層を変えた新たな価値をPRし、従来とは異なる顧客層の開拓のための活動を支援することにより、マーケットの拡大に努めます。



愛育フィッシュ（マダイ）



マダイの食べ方提案



あまのまのPR



～水産王国えひめの強み～

- 瀬戸内海（漁船）、宇和海（養殖）とバラエティに富んだ水産業
- 全国随一の産業クラスターを形成
- マーケットニーズに柔軟に対応できる業態
- 多量多品種養殖
- 養殖に適した海

これらの強みを全面に押し出したプロモーション活動を展開し、民間活動のアシストをしているきゃん。



魚類養殖日本一の愛媛から養殖魚のイメージを変えようと、2012年（平成24年）3月に愛称が決定したきゃん。愛媛県の養殖魚の包括的なネーミングとして、このロゴを活用したフェア等販売促進活動を官民一体となって進めているきゃん。

海外販売への積極的な支援を行います

これまで開拓してきた海外販路の規模拡大や、新たな仕向先の開拓に官民一体となって取り組むことにより、さらなる輸出の拡大を目指します。

具体的な推進事項

- 愛育フィッシュを核とした輸出拡大活動に官民一体となって取り組みます
- 輸出に必要な各種証明書の発行を迅速に行い、輸出の円滑化に努めます
- 欧米向け輸出等で求められる HACCP への対応について支援します
- SDGs に寄与する漁業認証など、マーケットインの視点に立った商品アイテムを増やすための取組を支援します
- 海外での真珠の販路開拓に取り組みます

これまで県では、愛育フィッシュ輸出促進共同企業体（通称：オレンジウエーブ）とともに、中国、アセアン、中東、北米等で輸出拡大活動を官民一体となって行ってきましたが、今後もこれまで培ってきたノウハウを活かして規模の拡大を行うとともに、新たな仕向先の開拓にも官民一体となって積極的に取り組んでいきます。

輸出に必要な産地証明といった輸出障壁への対応のほか、HACCP への対応や SDGs に寄与する漁業認証の取得などを支援することにより、輸出の円滑化に努めます。

真珠については、国内マーケットだけでなく、海外マーケットへの販売を促進することで、需要の拡大を進めます。



カナダトロント和食まつり



アメリカヒューストンでのフェア



海外向け PR



～カナダトロント和食まつり～

2019年11月18日にカナダトロントで開催された、県産品を使った日本食イベント「和食まつり」にて、現地レストラン関係者等に対して知事トップセールスを行ったきゃん。当日は、現地のトップシェフたちが集結し、現地の富裕層250名に対して、熟練の技が披露され、愛媛の食材をふんだんに使った高級料理が存分にふるまわれたきゃん。さらに、紅まどんな、ひめの凧といった愛媛自慢の高級農産物や地酒も多数そろえ、トロントは愛媛一色になったきゃん。

この取組によって、カナダトロントでの愛媛県産農林水産物の知名度は大幅にアップし、今後の輸出拡大につながることで大きく期待されているきゃん。

(3) えひめの水産業を育む地域づくりに取り組みます

漁家経営の安定化と漁村のさらなる組織強化をサポートします

資源環境や社会経済情勢に大きく左右されやすい漁家経営の安定化を図るとともに、水産業を支える漁業協同組合のさらなる組織強化をサポートします。

具体的な推進事項

- 漁業経営基盤の維持、発展に必要な金融支援を行います
- 不測の事態に備えた漁業共済やセーフティネットなど各種補償制度の活用を支援します
- 本県の水産業を支える県漁協のさらなる活躍を系統組織と連携してサポートします
- 漁業協同組合のさらなる組織強化を後押しし、より強固な漁業基盤を構築します
- 漁協役員への青年漁業者の登用を促進します
- 常例検査の実施等により、漁協の健全経営を確保します
- 漁業者の収益増加やマーケットインの視点に立った漁業構造の確立を目指します

安定した漁業経営を行うために必要な金融支援として貸付原資の融通や利子補給を行うとともに、漁業共済やセーフティネット、漁船保険など不測の事態に備えるための補償制度の活用を支援し、漁家経営の安定化を図ります。

令和2年4月に県下の43組合が合併し、組合員数や販売取扱高が全国トップクラスの漁協として設立された愛媛県漁業協同組合に対して、スケールメリットを活かした販売等の活動に対する積極的なサポートや、さらなる組織強化に向けた指導を行い、漁業者の負託に応えるとともに、より強固な漁業基盤が県下一円で構築されるよう努めます。

また、漁協役員への青年漁業者の参画によって、クリエイティブな漁協経営が進み、次世代につながる取組となることが期待されます。

さらには、漁業者の収益増加やマーケットインの視点に立った漁業構造の確立を目指します。



愛媛県漁業協同組合設立委員会

～県1漁協誕生～

令和2年4月1日に県下43漁協が合併し、「愛媛県漁業協同組合」が誕生しました。総組合員数7,468人、販売取扱高437億円と全国トップレベルの漁協として、愛媛の豊富な漁業資源をバックに、スケールメリットを活かした積極的な事業展開によって、日本の水産業をけん引する大きな役割を担うことが期待されています。

女性の躍進をサポートします

水産業における女性の活躍の場を拡大することにより、漁村の活性化、漁家の所得の向上、魚食普及による県産水産物の消費拡大を図ります。

具体的な推進事項

- 女性グループ組織の強化に取り組みます
- 魚食普及活動の担い手としての役割を充実します
- 商品開発や6次産業化の取組を支援します
- 女性グループ活動の起業化を支援します
- 女性の漁協正組合員としての加入による方針決定の場への参画を促進します

女性グループは、漁村において地域を支えているだけでなく、魚食普及や商品開発、6次産業化の活動、SDGsに寄与する環境保全活動など、様々な取組を行っており、水産物の消費拡大や地産地消の推進に大きな役割を担っています。それらの活動を持続的に発展させるため、積極的に支援するとともに、起業化につながる取組に対しても、サポートします。

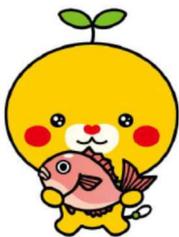
また、水産業における方針決定の場への女性の参画が少ないため、男女共同参画の推進の観点から女性の正組合員としての加入による参画を促進する仕組みづくりを働きかけることで、漁協のダイバーシティ運営を促進します。



愛媛県漁業協同組合大浜支所女性部



株式会社あこやひめ



～農林水産大臣賞を立て続けに受賞！～
毎年、東京都で開催される「全国青年・女性交流大会」で、「愛媛県漁業協同組合大浜支所女性部」が2017年に、「株式会社あこやひめ」が2019年に、同大会の最高賞の「農林水産大臣賞」を立て続けに受賞したきゃん。
愛媛県漁業協同組合大浜支所女性部は「加工直販施設「浜の台所 潮里（しおり）」の船出」と題し、苦勞を重ねながら地元加工直販施設を開設し、地域の活性化に努めた内容を発表し、(株)あこやひめは「真珠の輝きは絆の輝き」と題し、女性加工部から企業化までの道のりや、地元振興活動などを発表したきゃん。
これまでの活動功績が認められた素晴らしい結果で、これからの各地域での女性部活動をさらに元気づける、うれしい受賞きゃん。

漁村環境の整備に努めます

防災・減災対策、インフラ整備、水産関連施設整備を推進することにより、暮らしやすい、働きやすい漁村環境の整備に努めます。また、漁場の管理・保全や過疎化が進む離島集落への支援を行うことで次世代につながる漁村環境を維持します。

具体的な推進事項

- 津波・地震・高潮に対応した漁港の施設整備に取り組みます
- 老朽化した施設の維持管理に努めます
- 漁村の生活環境を改善するため、排水施設等の整備を支援します
- 浜の活力再生プラン等による水産関連施設の整備をサポートします
- 漁場の管理・保全、離島集落の活動に対する支援に取り組みます

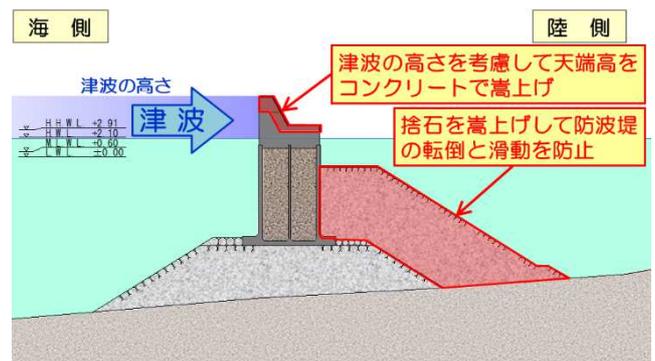
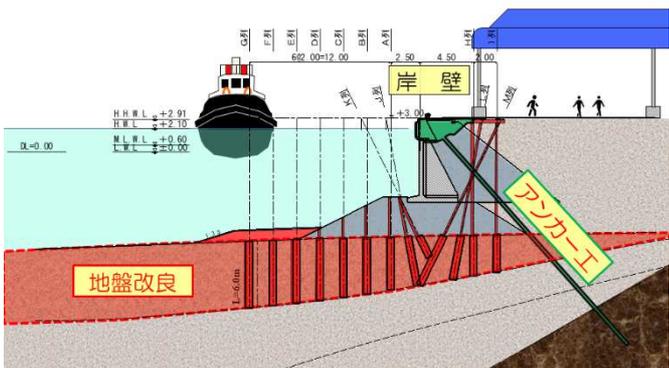
地域のインフラを充実させるため、津波等に備えた防災対策として漁港の施設整備に努めるほか、老朽化した施設の維持管理や更新、生活環境改善につながる排水施設の整備を支援するとともに、浜の活力再生プラン等に基づく水産関連施設を整備することにより、より暮らしやすく働きやすい漁村環境の整備に努めます。

漁業者等が漁場の管理・保全活動に積極的に取り組むことにより、自らの漁場の生産性の向上に加え、海洋環境の改善を進めるとともに、意欲のある離島集落の活動に対しても継続した支援を行います。

～深浦漁港における地震・津波対策の事例～



深浦漁港は、近い将来、発生が予測されている南海トラフ地震発生後の避難・緊急輸送物資の輸送等の防災拠点漁港として位置付けられていて、背後地域の被害軽減や発災後の地域水産業の早期再開を図るため平成 26 年から耐震強化岸壁への改良、防波堤の耐震・耐津波強化対策を実施しているきゃん。



内水面漁業の維持発展に取り組みます

海面と一体となったサケ類の養殖や、内水面資源に甚大な被害をもたらす外来生物等の対策、流域社会と一体となった環境保全活動などを通じて、内水面漁業への理解を深めます。

具体的な推進事項

- 海面と一体となったサケ類養殖に取り組みます
- 内水面資源にやさしい川づくりに取り組みます
- 外来生物やカワウによる内水面資源に対する被害の防除や低減に取り組みます
- ウナギ資源を保護するため、幼魚から成魚に至るまで一貫した管理に努めます
- 内水面資源保全意識の醸成に努め、流域社会と一体となった内水面漁業の振興に取り組みます

近年本県で養殖が始まった海面でのサケ類養殖用の稚魚を内水面で生産する取組が進められており、海面と一体となって活性化を進めます。また、従来からの内水面漁業においては、外来生物やカワウによる食害に加え、護岸整備による水生生物の産卵場や生育場の減少が問題になっているため、これらの解決に取り組みます。さらに、本県の重要資源の一つであるウナギについては、シラスウナギから成魚に至るまで一貫した資源の保護と管理を行うことで、持続的な利用を図ります。

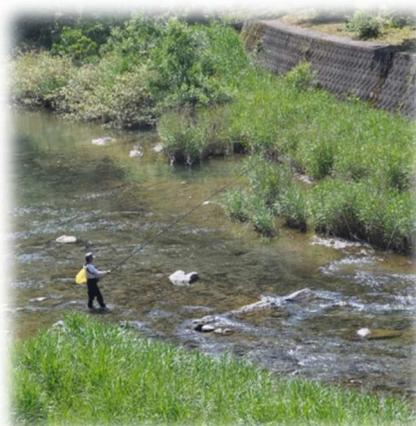
河川や湖沼などの内水面は県民のレクリエーションの場としての機能も有していることから、内水面資源保全意識の醸成に努めるとともに、流域社会と一体となった内水面漁業の振興に取り組みます。



稚魚（内水面）



成魚（海面）



県内河川でのアユ釣り



カワウ

海面と一体になったサケ類養殖



海で養殖するサケ類は、1年ほど内水面で育てる必要があるから、内水面と海とが連携して養殖に取り組んでいるきゃん。内水面漁業協同組合等はアユやアマゴなどの種苗を放流するなど、資源の増殖に努めていて、県民の手軽なレクリエーションの場となっているきゃん。一方、近年はカワウの食害が発生していることから、県では平成29年にカワウ管理指針を策定し、漁業被害の低減を図ってるきゃん。

漁村の魅力を発信し、交流人口の増加を図ります

地域の特色を活かした漁業体験等を積極的に行うことで、交流人口の増加を図り、漁村への理解促進と活性化を図ります。また、遊漁者や遊漁船業者への啓発活動を積極的に行うことで、ルールとマナーを守った漁場利用を促進します。

具体的な推進事項

- 魅力的な漁業体験プログラムづくりに取り組みます
- 地域水産業の特色を活かした取組を支援します
- 遊漁者、遊漁船業者への啓発活動を積極的に行います

漁業体験プログラムの実施や地域水産業の特色を活かした漁家レストランの取組などを支援することにより、交流人口増加による漁村の活性化を促進します。

また、漁業者と遊漁者とのトラブルが発生しないよう、海面の利用についてルールとマナーを遊漁者や遊漁船業者に対して啓発することで、漁業者の生活の場である海の利用が損なわれることなく、海洋レジャーのフィールドとしての利用とも共存できる海の有効活用を図ります。



漁業体験イベント（地びき網）

遊漁を楽しむみなさんへ

「ルールを守って楽しい遊漁を」

海は、自然に親しみ明日の活力を得る健全なレクリエーションの場です。一方、漁業者にとって海は、生業の場であり、生活の基盤です。漁業者と遊漁者の相互理解の中で、遊漁を楽しむため、海端のマナー、遊漁に関する法律や規則を守りましょう。

秩序ある遊漁

- ◎ 海をきれいにしましょう。
(ビニール、空き缶、空き箱などのごみや、残餌、釣針、釣糸は責任をもって処理しましょう。)
- ◎ 漁具、養殖施設等の周辺及び操業中の漁船のまわりでは、釣りを慎みましょう。
- ◎ 遊漁を行う上での制限や禁止事項を守りましょう。

安全な遊漁

- ◎ 安全に心がけましょう。
(天候に注意して避難防止に努めましょう。)
- ◎ 危険なところに立ち回らないようにしましょう。
- ◎ 港の入口等危険な場所での遊漁はやめましょう。



遊漁船では

- ◎ 出航から帰航までの間、船長及び業務主任者の指示に従ってください。
- ◎ 遊漁船の航行中は、むやみに立ち歩かないでください。
- ◎ 救命胴衣を着用しましょう。(機等の上でも同様です。)
- ◎ 船からのまきえづりは禁止されています。



要領内の沿岸域には共同漁業権が設定されています。遊漁者の方が、アフリ、サザエ、ワカメなどの水産動物物を採捕すると、漁業権侵害や愛媛県漁業調整規則違反となりますので採捕しないでください。

遊漁者向け PR



漁村への理解促進と活性化を目的とした漁村体験イベントは、近年、各地で行われるようになったきゅん。イベントは、漁業体験のほか、漁獲した新鮮な水産物をバーベキューにして食べたりするなど、魚食普及の側面も持ち合わせているきゅん。

海の豊かさ、大切さを後世に伝える取組は、SDGsの「海の豊かさを守る」ことにつながる大切な取組で、愛媛のみならず、日本が太古から大切にしてきた海を未来につなげる重要な役割を果たしているきゅん。

